

## 令和6年度 第2回小佐野公民館運営審議会 結果

日 時 R7.2.20 (木) 10:00~11:14

会 場 小佐野公民館 2階小ホール

出席者 黒田委員長、佐々木委員(釜石中校長)、千田委員(小佐野小校長)、吉田委員、  
長谷川委員、金濱委員 欠席：山田委員  
まちづくり課：佐藤課長、浦城主任  
事務局(小佐野地区生活応援センター)：小職

まちづくり課佐藤課長、黒田委員長からあいさつ。(略)

金濱委員に、まちづくり課長から委嘱状交付。

事務局から6年度事業の実績等について報告。(略)

委員長)事務局から報告がありました運営方針、重点目標、事業報告について、ご質問、ご意見を伺いたいと思います。

委員)まちづくり課長の方が詳しいかもしれないが、小佐野公民館を夜間に利用する場合、管理は小佐野町内会が委託されています。よそはどうですか。夜間の貸館はありますか。

課長)利用申込は公民館で受け付けるとしても、鍵は近くに住んでいる人に預け、そこに借りに行くというやり方をしているところもあります。青葉ビルには管理人がいるので、夜間休日の管理はその方をお願いしています。

担当課主任)条例上、公民館は朝9時から夜9時まで開館できることになっていて、どこの公民館も貸し出せる体制は整っています。

課長)ただ、公民館単体であるところと、それ以外のところでは、管理体制がちょっと違います。それ以外というのは、小佐野はコミュニティ会館と一緒に、釜石は青葉ビルと一緒にしているということです。

委員)夜の貸館をやっていない公民館もあると、チラチラ聞こえています。

課長)灯りが消えているとやっていないように見えるかもしれませんが、実際は、貸館はできるようなになっています。管理は、公民館単品のところ(管理人がいない)では利用者に任せて、終わったら鍵を締めてポストに入れておくという手法を取っているところもあります。利用量の多いところをみると、小佐野や釜石が飛び抜けているが、それは夜に活動するグループが多いからだと思個人は認識しています。いずれにしても、どこも貸し出せるような体制はできています。

委員)本当に年中頑張っているなと思います。ごくろうさまでした。やはり公民館は地域づくりの拠点なので、活発な行事や活動を継続していただきたいです。

公民館まつりとか、この前の音楽の力コンサートにも参加しました。男性陣のグルメの会が公民館まつりで振舞を行い、お代わりまでさせてもらって本当にいいなあと思いまし

た。都合つかなくてできない行事もあったようですが、それはそれとして、今後も活発な活動を続けて欲しいです。

委員) 公民館まつりは楽しかったです。普段は普通のおばちゃんなのに、舞台上上がったときには踊ったり歌ったりの素晴らしい活躍、生き生きしていてすごく良かったです。応援してくれる会場の雰囲気も良かったし、さっきもお話に出ていましたけど、とん汁も大変好評でした。あんまりしょっぱくなくていいねって皆さんおっしゃっていました。それから「大人のえんそく」というのが楽しそうで、今度参加したいと思いました。

普段でも 釜石の歴史に触れることがないので、連れて行ってもらえればと思います。なかなか自分からこういうところに行けないので、次はぜひ参加したいなという気持ちです。

それから DIY の方は残念でしたけれども（主に男性参加を目論んだ行事であったが、来たのは女性ばかり）、企画する側は知恵を出して、研究されていていいなと思います。

ご苦労様です。以上です。

委員長) 前の話は、青の木くらいなら何回か行く機会ありますが、今回はバスで山奥に入りました。車 1 台通るかどうかがぐらゐの車幅のところでした。この地にこういうのがあるのかという感じでした。企画する人たちは下見だとかなんかって大変だけでも、それも一つの業務だと意識してやってもらえればいいと思います。だから今回は橋野のみでしたが、次は小川にするとか唐丹にするとか、そういうのをやってくれると、もう少し見聞が広がります。

実施できなかったのも多いようですが、実施したのも内容は結構真剣で、今回はかなりインパクトがあった。公民館まつりは 400 人ちょっと入ったそうだし、(社協の) 東梅さんはわたあめを作るのが大変でした。120 人分くらい作ったのではないかと思います。

委員) これに、公民館対抗のニュースポーツ大会は載せてないんですか。

委員長、事務局) その扱いは、公民館行事とは別としています。

委員) 去年も多分お話ししましたが、企画するっていうことは本当に大変だろうなと思います。

地域の方々元気なのは、こういうものがたくさんあるからじゃないかなと思います。学校にボランティアとして来てくださる方がたくさんいて、すごく助けていただいているし、来てくださる方は元気になって帰るっておっしゃるんですけど、私たちも元気にさせていただいています。本当に地域の力が強い地区だなというふうに思っています。

子ども食堂は参加者数を見ていただくとびっくりされると思うんですが、本校 284 名なのに 121 名も参加したという結果で、回を重ねるごとに増えていると感じます。参加した子たちが、良かったということを広めているのだらうなと思います。民生委員さんがいろいろな工夫をして、行きたくなるような内容のチラシを作って下さり、ありがたいことだなと思っていました。自治体がどう関与するのもあるのですが、予算が少ない中で食事を食べさせていただけるという感謝しかありません。公民館まつりに子供の参加が少ない気がしましたが、もう少し入れても良かったのではと思います。

事務局) できれば、(公民館まつりの) オープニングとかに保育園の子供たちの賑やかな声や踊りが欲しかったんですが、調整がうまくつかなくて残念ながらできませんでした。委員) たくさんの事業をやられると、地域の活性化に繋がっていると感じます。いろいろ協力要請されても応えられないところもあるかもしれませんが、子供たちを少しずつでも地域に関わらせていきたいと思います。こども食堂のボランティアも2名いたとのことで、少しずつ広げていけたらいいし、公民館まつりの部分でもお手伝い出来ればいいと思います。文化部の発表のところも、文化祭で展示したものを利用したりということはできるかもしれません。

課長) 行事に男性参加者が少ないという話、中妻では男性の参加を促すために、健康マージャンを企画。既に小佐野や平田でもやっているものです。頭を使ったり手を使ったりして、とてもいいものです。卓がないというので、平田から借りられるとか、小佐野にも道具があるという話をしています。18人くらいの申し込みがありましたが、男性は2人であとはみな女性だったそうです。男性参加は、そういうのから少しずつ増やしていったらどうか。

昨日、医師会や薬剤師会という職種の方たちの入る会議があり、そこでもやっぱり応援センター・公民館というのは地域との繋がりに関する位置づけとして高い評価を受けています。今のこういう釜石市の活動やシステムは他にはないものです。保健分野があり、地域も学校も入ってきているというのがありません。

これがあったおかげで、例えばお年寄りの一人暮らしで、普通なら誰からも見てもらえない人が、必要なところとつながって、結果的には、危ない状況に至りそうだった人を助けることができたりしています。子供の目によっても、悪い結果になるのを防いだりもしています。つながるカフェという認知症の講座をよその公民館では行っていますが、そこでもやっぱりお年寄りの方が一人にいるのを、たまたま同じ地域の中学校の生徒が見つけて通報し、大人が来るまで待って話を聞き、命を繋ぐみたいな感じになった事例もあります。地域と学校と行政と一緒にやっていくという内容を皆さんから見ていただき、市長から「仕込んだんじゃないのか」と言われるぐらい応援センター、応援センターと、いろんな業種の方からお褒めの話が出でいました。

やっぱりこれが地域力になるのかなって思います。例えば釜石市は、結局全部応援センターがカバーしているということで、それが力になっているのかなと思います。

大人の遠足じゃないですけど、実は橋野には御神楽杉という立派な巨木がある。栗林には明神桂という、やっぱり見栄えがすごくいい木があります。公民館の中には市外の見学に行くところもありますが、まず釜石市内でも知らないことが結構あるだろうと思います。小佐野地区でも、甲子地区でもそうです。ウォーキング中に史跡があったりして、「これなんだっけ」という話になったりします。いい企画だし、続けてもらいたいなと思いました。

「本のまち」ですが、応援センター・公民館には必ず図書スペースがあります。小佐野は

8地区の中で一番大きなスペースを持っていますが、実際、本の動きはほとんどありません。たまに歴史の本とかを借りたいといった話がある時に対応する程度です。これを誰でも自由に触れるように、スペースがなければ窓口の下に置いて、誰でも取ってみていいよという形にすることも考えています。図書館では5月に廃棄する本が数千冊あり、寄贈も多いのですが、適さない本とか汚れ、破損している本というのはもう使えないので、それをセンター長に見てもらい、持って行ってもいいなら、各センターに引き取ってもらう。事業に関連した見本として展示したり、リユースの事業もやりたいと思います。中学校や高校に向く出前図書館の形をとってもいいと考えます。

公民館も少しずつ、名前を付けて各地区図書館いう形にして、貸し借りも出来ていくようにもっていけるといいと思います。小佐野の場合は、図書館はすぐそこにあるので、わざわざ公民館に来なくてもいいのですが、例えば、栗橋等は便利がよくなります。リクエストして、こんな本を見たいんだけどというのを出してもらえれば、応援センターは毎日文書の送達があるので、その時に運んでもらうこともできます。もしも家で眠っているような本があれば、それを集めたりということも考えています。まだ予算もついていないのですが、地域、地区の皆さんとお話しながら、内容が固まってきたら今後予算要求していく予定です。JRの待合室にそういうスペースを作ったところもあります。あまり進んだ内容だと本屋さんを圧迫してしまうので、その辺まで含めて今後考えていきます。

担当課主任) 地域の身近な史跡等の見聞を深める等の事業であれば、マニアックな知識を持つ職員を派遣できます。出前講座の事業もやっており、講師陣も揃っているのでご相談いただきたいと思います。

課長) 出前講座の一環で、今年度、釜石中学校の1年生が海上保安部の仕事の一日体験も実施した。公民館でバスの手配をしたら、うちは講師役のマニアックな職員を配置できるし、公民館事業で初めてこういうのをやってみたいというのがあれば、生涯学習の事業として対応できますので、ご意見をいただきながら、引き続きよろしく願います。

委員) 今、課長から話しのあったマイクロバス(移動図書館?)、あれは今後どう考えていますか。

課長) 利用率を見て考えたいと思います。これもやはり財政サイドから言われることです。センターを活用するのは経費節減の一つでもあります。例えば、自分の読みたい本をリクエストして応援センターで借りられれば、そこにバスは行く必要はなくなります。本を読みたいのだが借りには行けないという場所だけを選定し、バスの数を減らすということは当然考える必要があります。運転手さんも今一人なので、その時によって、例えば冠婚葬祭があったりした時に、どうしても出られないとかそういうこともあるので、今後、巡回する場所を狭める等を考えていかなければならないと思います。

委員長) 利用率を見て、効率よく取ってもらうのはいいことだと思う。

委員) 小佐野小学校の校歌がいつ、なぜ変わったのか。12月のワイワイ食堂の時に気づいた。

委員) 小佐野小と小川小が統合した時で、20年ぐらいたつ。

委員長) これは教育委員会ですね。まあ統合しても変わるところもあれば、変わらないところもあります。地元とかPTAとかいろいろ大変なんですね。

委員) 大人の遠足なんですけど、お友達が例えば市外(中津町)なのだが、一緒に行きたいというときは誘っても大丈夫ですか？

委員長) 小佐野地区の住民に限って考えることはないです。どこのイベントにも参加できるものです。この前、音楽のちからのコンサートの時、所用で小佐野会場に來れなかったので、翌日中妻会場に行きました

子供食堂も、中学生参加にびっくりしました。高校生が來ると思っているから。社会貢献とまではいなくても、ボランティアで社会福祉に目覚めて、こういう活動を自分たちが受けた、それに感じるものがあるって、自分より下の子供たちの世話をしようっていう気持ちを持ってくれるのは、すごく大事なところかなと思います。いろいろな形で、高校と中学校にはちゃんと礼を伝えています。

課長) 中学生一年生から二年生が、地区の勉強に取り組んだことがあり、結構地域の住民とふれあうこともできました。こども食堂も結構携帯でやり取りして広まっているようです。そういう意味でのコミュニティは確実に進歩しています。震災から14年ですから、そういう意味では応援センターが核になったのは間違いありません。それまでセンターという形しかなく、名前だけであり、存在感というのはなかったから。

地域で医療とか保健福祉分野も充実させようということから、応援センターというのことができました。今は、学校から地域から、高齢者も含めて、多くの人の集まる場となり、行事も行われているのが当たり前。なのに、ただ経費節減と言うことで、今は応援センターを縮小しようとか、いろんな話が出てきています。

委員) 談話室にすごくたくさんの本があり、放課後ひろばに來ている子供たちはやっぱり目にします。だけど子供たちにちょうどいいのは少ない。例えば、折り紙の本とか、もう少しあるといろんなものを作れます。それから、子供たちにちょうどいい本がなかなかないかと思えば、逆にこれは1回でも動いたことがあるのかっていう本もある。例えば、ブリタニカ、百科事典。棚の入れ替え、整理が必要です。エアロビ後のおばちゃんが、自分たちの活動に関連した食事の本を手取るような、そういう工夫が必要だと思います。階段に上がるまでの間に何らかの工夫があると、本を手に取りやすいと思います。

館長) どの公民館も図書ができていません。整然としていて、貸し出しもしているのは釜石センターぐらいです。今回図書館が廃棄する本で、子供向け、大人向け、あるいは趣味の本というのは 応援センター長たちを呼んで、振り分けたいと思います。中妻には定期的に、公民館に単行本を寄付する方がいるが、スペースがないので、きちんと整理してジャンル別にする等、興味をそそるレイアウトの検討が必要です。

委員長) 私からの希望ですが、釜石市のコーディネーターさん、この前初めて盛岡へ行って名前を覚えたのですが、もう少し表に出て、地域と課長達の間に入って動いてもらいたい

です。紫波のコーディネーターほどやれとは言わないけれど。  
担当課主任) 寺田さんは、市全体ではなく、釜石小学校のコーディネーターです。  
委員長) 了解しました。撤回します。各校にいるコーディネーターが年に1回くらい集まって、情報交換やコミュニケーションを図る場を作ってはどうかと考えます。

その他質疑等はなく、事務局が閉会を宣言し、会議は終了した。